

多世代共創による 視覚障害者移動支援システムの開発

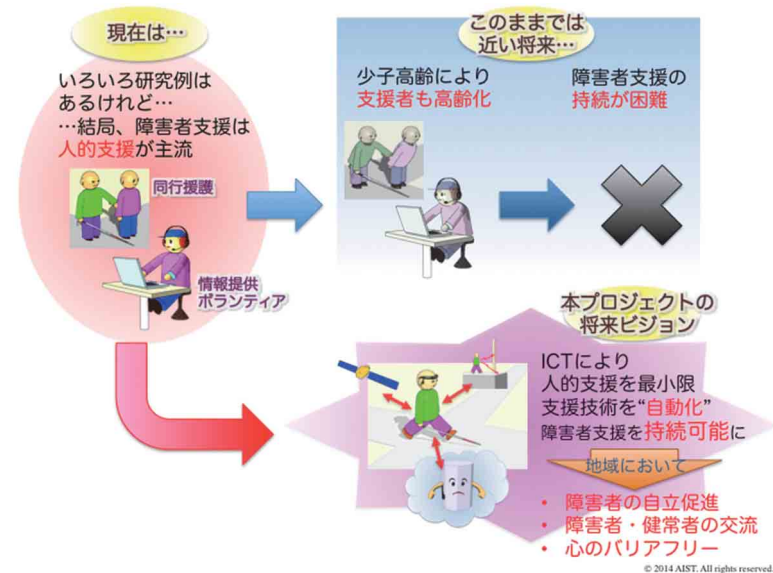
研究代表者：関 喜一
(産業技術総合研究所 上級主任研究員)

実施者・協力者： 産業技術総合研究所、静岡県立大学、神戸大学、新潟大学、筑波大学、神戸アイライト協会、国立障害者リハビリテーションセンター、株式会社エムティーアイ

実施地域： 神戸市、新潟市、静岡市、つくば市

背景

- 視覚障害者の移動支援は人的支援が主流
- でも今後、支援者も高齢化し、支援の維持が困難？



プロジェクトが目指すもの

<目標>

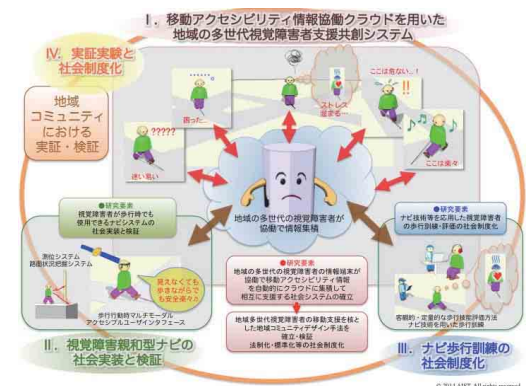
- 多世代の視覚障害者が協働で相互に移動支援を行う社会システム
- 移動支援を核とした地域コミュニティ・デザイン

<明らかにしたいこと>

- 特殊なインフラやハードウェアを使用せずに実現できるか？
- 移動支援を核とした地域コミュニティの形成は可能か？

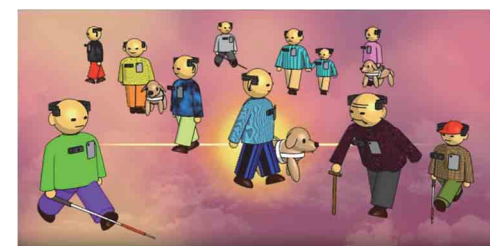
<成果の活用イメージ>

- クラウド技術と汎用携帯端末を用いた移動システム
- バリアフリー法などの法制度化、歩行訓練の制度化
- 2020東京パラリンピックでの実証



プロジェクトにおける持続可能性、多世代共創

- ICTによる人的支援の不足解消と、システムを介したコミュニティで、視覚障害者の移動支援を持続可能に
- 多世代共創による移動アクセシビリティ情報の構築



- “マッピングパーティ”
 - 多世代視覚障害者 & 晴眼者による地図情報作成活動



- 実環境だけではなく、仮想環境でも実施

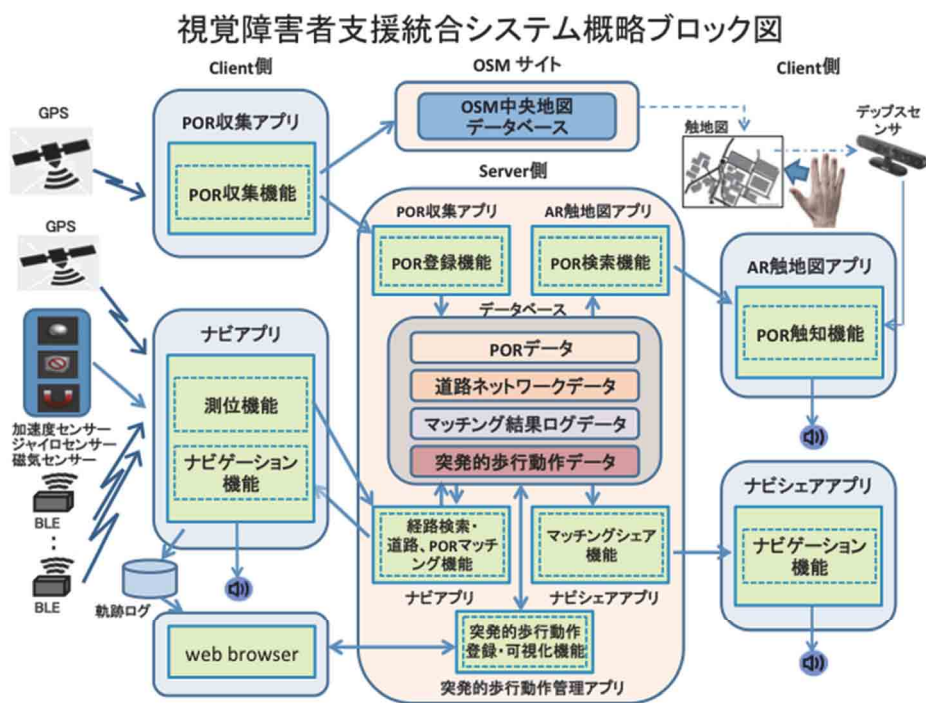


✓ ICTを介した多世代共創移動支援の新方式
 ✓ 社会への普及方法が課題

- 多世代共創イベント“AR巨人将棋”



- 特殊なインフラ・ハードウェアを使わない移動支援システムの開発



移動アクセシビリティ情報自動収集技術



- 今後のプロジェクトの進め方:
 - 技術開発のみならず、技術を活用したマッピングパーティなどの社会活動の実施
 - 神戸におけるシステムの実証